

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171700182		
法人名	有限会社 ライフケア		
事業所名	しきぶの里		
所在地	佐賀県嬉野市塩田町大字谷所甲2385-1		
自己評価作成日	平成27年01月01日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成27年1月20日	外部評価確定日	平成27年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然に囲まれた穏やかな環境の中、日当たりのよい食堂兼居間に皆で集い、入居者様が健康的で一日一回でも大きな声で笑え、リラックスできる家庭的な雰囲気づくりに努めています。職員が、笑顔でストレスを溜めずに楽しめる職場づくりを心掛ける事が、入居者様の笑顔につながると考え実践しています。</p> <p>施設の基本方針である個々の入居者様の自己選択、自己決定を促し、能力に応じた自立支援に力を入れています。又、地域住民の皆様との交流を図りながら、開放的なグループホーム運営に努めています。</p> <p>施設の理念である『みんな笑顔でハッピーに』を実践する為職員一同努力しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、自然豊かな山里の麓にある。四季の移ろいは地域住民の豊かな人情と相まって、利用者の心を癒している。開設時から地域との交流を大切にしながらの支援であり、事業所はすっかり地域に溶け込んでいる。故郷めぐり等の外出時には地域の方々からも親しく声をかけてもらっている。また、野菜、干し柿用の柿や椎茸の原木等が届いたりすることも度々である。地元消防団による祝賀放水や地域の食事会にお誘いもある。日常的な交流は勿論、職員は地域の美化活動や運動会に参加したり、地域づくりコミュニティ委員として活動する等、積極的に地域と関わりをもっている。</p> <p>「笑顔で暮せるように親身になって介護をさせていただきます」を基本にして、「一日一笑」を意識しながらの毎日の支援である。利用者の尊厳を第一にし、職員の明るく笑顔のある接し方は、利用者の心情や表情を豊かにしている。</p> <p>利用者の視点に立って模様替えをした明るくて広いホールは、この施設の自慢の一つでもある。利用者もここで思い々にゆったりとした時間を送っている。</p> <p>職員は、外部研修や勉強会、他の施設との交流を通して介護の関する研鑽にも励んでいる。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、ホーム内に掲示されており、日常的に意識しながら、入居者様・ご家族様・職員・地域の皆様が笑顔で交流できるよう実践を心掛けている。	介護理念と地域密着サービスの在り方を基にして、毎年、運営理念を職員会議で議題として確認している。代表者や管理者による適切な指導もあり、日々の支援の中で運営理念の具現化と共有化を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区費を納め、地区回覧板や行政の配布物等により日常的な交流を持ちながら地域の中で生活している。その他、地域づくりコミュニティ委員としても参加している。	開設当初から地域自治会の一員でもあり、地域の中に溶け込んでいる。地域の美化活動にも参加出来る時間を生み出して参加している。近所から野菜や山の幸が届く事も多い。地域の食事会やだご汁作りに参加する利用者もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1回開催している運営推進会議には地域住民代表の方が参加されており、会議の場において色々な取り組みについて報告、伝達している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回定期的に運営推進会議を開催している。会議では2か月間の行事報告、事故報告、入居者様の現状報告等施設の現状を知って頂き、多方面からのご意見を頂きながらサービス向上に努めている。又、欠席された方には、後日資料、議事録を送付している。	会議にあたっては、委員からの多様な意見や質問も多々出され、サービスの向上に活かされている。転倒予防や故郷めぐりに質問があったり、専門的な有識者から留置カテーテルについて助言をもらって支援に活かしたのはその一例である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに市の担当者にも加わって頂いている。時に行政の福祉事業について尋ね適切なアドバイスを頂いている。又、定期的に開催されている地域ケア会議にも出来る限り出席するよう努めている。	行政からの運営推進会議への参加だけでなく、事業所からも行政の担当課へ顔を出して、情報や課題等を共有している。地域コミュニティにも参加したり、行政からの要請にも出来るだけ応えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や窓は夜間のみ施錠し対応しており、日中は自由に活動して頂けるよう配慮している。又、毎月の職員会議においても身体拘束について話し、職員の理解を深めているほか、研修も行い、常に身体拘束をしないケアの実践を心掛けている。	職員は、身体拘束の弊害や具体例をよく理解しており、拘束ゼロが実践されている。、玄関や非常口は夜間を除いて自由に出入りでき、閉塞感がない。言葉による心の拘束も無いように常に意識しながらの支援に臨んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待は無いが、言葉により相手を傷つける事が無いが職員間で注意を払い防止に努めるとともに、学習会を開いたり、毎月の職員会議で皆で話し合い防止に努めている。又、玄関ホールにも虐待防止の指針を掲示し、常にスタッフが注意できるよう環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の日常生活自立支援をするうえで、利用者の応力に応じて残存機能を引き出し、少しでも自立できるよう支援している。又、外部の研修会に参加し、施設内で伝達講習を行い知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望時の時点から契約書、重要事項説明書に基づき説明し、納得を頂いたうえで同意、署名を頂いている。又、不安な点や疑問点に関しては、再度説明し理解を得ている。改定の際にも文書での説明を行うとともに、個別に説明対応を行う事で理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を設置している。又、面会時等にご要望やご意見について声かけしたり、毎年施設利用のアンケートを実施している。ご家族等より出された要望については、職員会議で対応を検討するとともに、運営推進会議で報告し、意見を伺うよう努め、今後の運営に活用している。	家族の面会時等には必ず声をかけるだけでなく、利用者家族が皆そろって行事の機会を利用して家族へのアンケートや、利用者からも聴き取りをしながらアンケートを実施し、満足度を推測している。その結果を職員会議で検討し、サービスの向上に結び付けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を代表者をはじめ職員全員の出席のもと開催している。職員の見解や要望等に関しても、会議には代表者も出席しており、即答できる為早期の解決が図られている。	代表者や管理者を含む全職員間の意思や意見が円滑に交換出来ている。じょくそう予防のためのエアーマットの購入が即座に図られた例もある。申し送りノートも日常の支援だけでなく、事業所の運営に有効に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当の支給、研修会参加の助成、超過勤務手当の支給等がなされているほか、スタッフの配置に応じ無理の無い程度に有給休暇取得したり、夏季休暇や年末年始休暇の取得もできるようになっている。又、管理者からの要望事項を聞き職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し、職員のキャリアに見合った研修参加を薦めている。研修会参加の諸経費の負担や参加しやすい条件整備に努めている。施設内研修は、月1回担当者を決め、実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	塩田・鹿島・太良地区グループホーム交流会が毎月開催されており、参加している。他施設の情報や取り組みについて意見交換している。参加した研修会の内容については、参加者が職員会議等で報告し、情報を共有しながらサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族やご本人との面談を行い、本人が困っている事や、不安なこと、要望等を伺い安心を確保するための関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族との面談を行い、ご家族の疑問、不安、要望等に耳を傾けながら、施設として出来る事とできない事を理解して頂けるよう努めている。入居後は、面会時や電話・家族だよりにてご本人の生活状況等の情報を提供し家族との関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	各医療機関や外部サービスとの連携を図りながら、必要な支援を見極め、必要な方には訪問診療、訪問歯科診療、病院リハビリ等にて対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝の集いを毎朝開き入居者皆様の意向に沿った一日の過ごし方をお手伝いできるよう努めている。これまでの生活歴(職歴)を踏まえ、入居者各自がやりたい事、出来る事を実践していけるよう努めている。料理、裁縫、園芸等職員が教えてもらいながら一緒に行う事も多い。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事参加の依頼、自宅への外出・外泊支援の協力、日常的面会を通してご家族間の絆を再確認して頂きながら、施設での生活状況を伝え、協力を依頼する事で、一人の入居者をみんな(家族、事業所、医療機関等)で支えているという意識を持っていただけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	故郷巡りを計画し実施している。これは、馴染みの場所に出かけ、馴染みの人と出会う事が出来る事が目的である。又、個々の希望により行きつけの美容室へ行ったり、近所の方々との食事会への参加の支援を行っている。	希望による故郷めぐりは、近所の方やかつての知り合いから声をかけてもらうこともあり、良き出会いの機会にもなっている。年間計画やその日の新聞写真からバルーンやかかし見学に出掛けるなど、いろいろな支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士お互い自然と寄り添い談笑されている。職員は、入居者の相互関係を十分に把握し、声かけ、介入する事で一人が孤立することの無いよう心掛けている。時には食事テーブルの席順を変更し、より良い対人関係が築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期療養を必要として退所された方に対して、随時面会に出かける事で関係を断ち切らない取組みを心掛けている。面会時や街中でご家族に出会った際にも、声をかけさせていただき、近況を伺ったり、相談に乗る等ご家族の思いを汲み取りながら支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎朝開いている朝の集いで「食べたい物」「行きたい所」等希望を尋ね記録している。その日に出来る事は即日実行し、無理な場合は、後日計画し実行している。	日常の関わりの中での声かけや会話、つぶやき、ちょっとした動作や表情の変化からも把握に努めている。朝の集いの記録は全職員が共有し日々の支援や介護計画にも活かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や生活習慣、得意分野の活動等情報収集し、職員が情報共有出来るようフェースシートとして残している。又、入居後明らかになった情報についてもその都度フェースシートに記載し残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家事活動(掃除・料理・洗濯物たため等)や、下肢筋力低下予防のための歩行訓練や下肢の筋力アップ運動等各人の状況に合わせ実施している。心身の状況把握は、受診記録簿や援助記録にて共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞くとともに、主治医やリハビリ担当者、訪問歯科医等必要な関係者からの意見を聞き、計画担当者を中心に職員で検討し現状に即した計画立案に努めている。モニタリングは定期的に行い、次のケアプランに活かせるようにしている。	利用者の視点に立って、その人らしく暮らしていける様に、利用者や家族の要望を踏まえて、全職員が実行可能で具体的な介護計画の作成に関わり合っている。三ヶ月毎、又は必要に応じての計画の見直しも柔軟に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は施設サービス計画の長期目標、短期目標に沿って記録している。日々の記録は、サービス計画の見直しの材料として活用しているほか、必要な事項は、計画担当者に申し出るとともに、職員会議の場で話し合いを行いケアの統一を図っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科診療・通院リハビリ等利用者のニーズに合わせ対応している。事業所での生活をマンネリ化させない為にも、外出レクやボランティアの受け入れも積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れ ・アコーディオン(毎月)・・・演奏に合わせ歌や体操 その他入居者の得意とする踊りや歌や特技を披露して頂き、本人の力を発揮する機会を設けている ・大正琴・詩舞・踊り等・・・年に数回ボランティアの方が来所され、みんなで楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人・家族の希望で決めている。家族が受診付添いできない場合は職員が付添い介助を行っている。 病院リハビリを活用されている方が、2名おられ、その介助支援も職員で行っている。	利用者や家族が希望する病院での受診である。受診受付や付き添いの支援もしている。協力医療機関とは何時でも相談できる関係にある。定期的な訪問歯科の受診だけでなく、場合によっては随時の訪問診察、治療もある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日々の入居者との関わりの中で、異常等の早期発見を心掛け、随時看護職員に報告・相談を行い適切に対処している。その結果、主治医への報告・連絡・相談もスムーズにできる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、家族同伴にて主治医面談を依頼し、治療期間や治療方針の説明を受け今後の施設利用について検討している。 入院先の病院とは、管理者または計画担当者が、地域連携室と情報交換をしながら早期の退院に向けて連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の施設方針や手順については準備している。契約を交わす段階で終末期ケアについても意向を聴取している。又、ご家族の気持ちも時間の経過と共に変化される為、面会の際に等、随時意向を確認し、新たな要望が出て来ないかモニタリングしている。	入居時に家族と納得のいく話し合いを持っていく。健康状態に応じて家族と話し合う機会を度々設けている。重度化した場合も含めて、終末期の在り方についても家族の意向をその都度確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内、施設外研修会にて急変・救急時の対応について知識を深めている。救急時のマニュアルも作成し有効活用しながら全スタッフがいつでも対応できるよう技術の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上日中、夜間各想定のもと、通報・消火・避難訓練を実施している。今年度は、未だ実施出来ていないが、地域消防団との合同訓練も例年実施している。又、地区公民館で実施された「災害についての学習会」にも職員が参加し、地域で出来る災害対策について意見交換を行った。	防災対策マニュアルに従って年2回の避難訓練が実施されている。その際、近所や地元消防団、消防署の協力を得ている。避難経路、避難場所、通報システムもきちんと整備されている。地形の特徴から土砂災害にも備えている。非常食や飲料水の備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念である『みんな笑顔でハッピーに』を念頭に置いた言葉かけや対応を心掛けている。又、職員間で互いに気づいた時には注意し合い、職員会議の場でも話し合いを行い、適切な対応を心掛けている。	権利擁護(個人の尊厳・プライバシーの保護・自己決定権など)を基にして毎日支援している。何気ない言葉かけ一つにしても常に気を配り、職員同士で互いに指導しあう事もある。個人情報も方針に沿ってきちんと管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎朝、朝の集いを開き、「今日は何をして過ごしますか」「食べたい物はありますか」「どこか行きたい所はないですか」と尋ね、各人が思いや希望を表す事ができる場面を作る事で、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝の集いの中で、「今日は何をして過ごしましょうか」と尋ねている。趣味やドライブ等は、可能な限り希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの洋服が着れるよう声かけを行っている。又、スカーフ等の小物を使いおしゃれをされたり、化粧品やマニキュアを塗りおしゃれを楽しんでいる。男性に対しては、気軽に髭剃りが出来るよう手の届くところに鏡、電気カミソリを置いておき、好きな時に髭剃りが出来るよう環境を整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎朝の集いの場で、その日の献立を紹介した後、「食べたい物」を尋ね、材料があれば献立を変更し希望の食べ物を提供するよう努めている。食事の準備は女性を中心に参加され、野菜の皮むきやカット、味見、盛り付け等をされる。食後は食器洗いや盆拭き、テーブル拭き等を手伝われる。	調理の音や香りが利用者の五感に届いている。職員もそれとなく見守りながら利用者と一緒に同じ食事を摂っている。会話も交わされ、家族的な食事風景である。家族や本人に相談し了承を得て、利用者の心を十分にくみ取ったうえでの食食用エプロンの着用例もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉、魚、野菜の栄養バランスを考えながら献立を考え提供する事を心掛けている。毎月体重測定を実施している他、毎食食事摂取量をチェックし、食事の摂取状況を把握に努めている。又、各人の体調に合わせて主食を粥に変更したり、刻み食にて提供したり、水分にトロミを付け提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の歯磨き・義歯洗浄の声かけ・見守り・介助を各人に合わせて行っている。義歯使用者の義歯については、夜間義歯洗浄液に浸けている。その他、訪問歯科診療にて、定期的に口腔ケアを行って頂いている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的な声かけにてトイレ誘導介助している他、個々の行動・習慣に合わせて誘導介助を行っている。又、夜間も居室のトイレや共用トイレ(車椅子対応)に誘導し、トイレでの排泄や排泄自立に向けた支援に努めている。	排泄の習慣やパターンは一人ひとりきちんと把握されていて、その時、その方に応じた支援である。夜間に安心して睡眠出来るようにとおむつを使用しているかたにもきちんとトイレへ誘導されている。尊厳にも十分に配慮した自立支援である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操や歩行訓練等適度な運動を行うとともに、水分補給や野菜を多く取り入れた食事の提供、毎朝のヨーグルトの提供等にて便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は日中に行い、曜日は決めていない。一日に3～4人の方がゆっくりと入浴していただけるよう努めている。希望があれば、毎日でも入浴できる。体調によっては、足浴や清拭で支援する事もある。入浴には、職員の声かけが必要である。	利用者の希望に応じた入浴支援である。入浴準備は毎日出来ている。入浴順番を利用者同士で決めてもらうこともある。入浴をおっくうがる方には、無理をせず、タイミングを見計らって入浴の支援を心がけている。脱衣場の室温にも配慮が届いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は、本人の状態に合わせて行っている。夜間不眠時には、無理に休んで頂くようなことはせず、ホールにて温かな飲み物を飲んで頂きながらゆっくりと過ごして頂き、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の説明書を各人つづりにし、薬剤管理は職員が行っている。 薬の変更があった場合は、特に気をつけて助歌を観察し、変化のある場合には主治医に報告・相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自が出来る事(家事)を手伝って頂き、趣味(カラオケ・習字・詩吟・塗り絵)や特技を発揮し、日々を楽しみながら過ごして頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事として外出計画を立てたり、朝の集いで行きたい所の希望を聞いたり、新聞等で情報を得てドライブや故郷巡り、外食等を行っている。又、天気の良い時には朝の集いや散歩を行うなどしている。盆や彼岸の墓参り等もご家族、職員協力し、本人の思いに沿った形で実施している。	朝のつどい時に散歩や畑まで出かける希望を尋ねているが、年齢を重ねた事もあり、散歩の回数も少なくなってきた。買い物も同じ様な傾向にある。年間計画等による外出や故郷や自宅付近を訪ねる試みは、喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各自預かり金があり、必要に応じて代理購入したり、外出時に好きなものを買って頂いたりしている。個別で現金出納帳を作成しており、毎月ご家族に収支報告を行っている。又、別に小遣い銭を自己管理している方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を4名の方が所有し、家族と自由に交信している。その他の方は、施設電話にて支援している。贈り物のお礼には、直ぐに電話や手紙にて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の悪臭防止の為に換気に気をつけている。又、室温、湿度も数値により管理している。廊下の照明はセンサーにより自動点灯するようになっており安全確保に努めている。室内には季節の花を飾ったり、壁面に、行事の写真や、入居者の作品を掲示するなどの工夫をしている。	自然の光が豊かに差し込む食堂兼居間を兼ねる広いホールは、利用者のお気に入りの場所である。ほとんどの利用者はここで時間を過ごしている。ホールは利用者の立場にたって模様替えや改装、備品の購入も行われている。新聞や図書もある。浴室や共用トイレにも配慮が行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関側に3人掛けソファを1台、ホールに1人掛けソファを4台、廊下に等の椅子を1脚設置している。気の合った者同士ソファに座り話をする等思い思いに過ごす事の出来る場所となっている。又、一人で過ごしたいときには居室で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンスやテレビ等本人の好みの物や使い慣れた物を持参され設置している。室内は、家族写真等で飾りつけされている。	各居室ともそれぞれに、使い慣れた品物やお気に入りのもので構成され、その方がゆっくりと落ち着いて過ごせる場所になっている。テレビ、家具、観葉植物、思い出の写真、趣味を楽しむ用具、その他色々な物が見受けられ、それぞれが個性のある居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物干しスタンドを各部屋に設置している。出来る方には自分で洗濯物を干したり、たたんだりして頂き、収納している。クローゼット内は、衣類を仕分けて収納できるよう名札を付けて分かりやすくしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない